

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム（A）】

受託団体名 川崎市日本語指導等協力者勉強会

1. 事業名称 みんなで学ぼう かわさき！

2. 事業の目的

川崎市には外国人や外国にルーツを持つ人達が多く居住している。居住者自身が地域の住民であることから始まり、子どもの保護者、父親、母親、学校で外国にルーツを持つ子ども達の児童生徒の保護者でもある。また、新しく来日したエスニックコミュニティの人たちへの情報伝達者として活躍する。また、ある人はバイリンガルの立場としての支援を地域でおこなっている。これらの人たちが専門的な知識を少しでも身につけるための事業を展開する。

3. 事業内容の概要

主として地域の住民、保護者として或いはバイリンガルの指導者として、子ども達に日本語を教えるためのスキルを身につけるために、外国籍住民を中心に事業を展開する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開催日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成 24 年 6 月 29 日 14:00～17:00	3 時間	川 崎 市 総 合 教 育 セ ン タ ー	村 井 直 子 高 橋 悦 子 三 宅 裕 子 古 村 睦 美 田 子 は る み 浅 野 真 美 池 田 恵 子 田 原 明 子 藤 中 大 洋	1. 日本語教室の 設置・運営の検討 2. 日本語教育の ための学習教材の 作成の検討 3. 日本語教育を行 う人材の養成・研 修の実施の検討	1. 日本語教室（ひまわり・タンポ ポクラス）開催の日時、テーマ、 内容、募集方法、準備、担当 2. 「あゆみ 2」作成検討会の日 時、作成方法 3. 養成・研修開催の日時、テー マ、内容、募集方法、準備、担当
2	平成 24 年 9 月 25 日 13:00～16:00	3 時間	川 崎 市 総 合 教 育 セ ン タ ー	村 井 直 子 高 橋 悦 子 三 宅 裕 子 古 村 睦 美	1. 日本語教育を行 う人材の養成・研 修の実施の検討 2. 日本語教育の	1. 第 1 回（10/26）の内容、アンケ ート、講師依頼、準備、当日担当 について 第 2 回（11/8）の内容、 アンケート、講師依頼、当日担当

				田 子 は る み 浅 野 真 美 池 田 恵 子 田 原 明 子 藤 中 大 洋	ための学習教材の 作成の検討	について 2.「あゆみ 2」作成検討 委員会の経過報告と今後の検討 方針について
3	平成 24 年 11 月 29 日 13:00 ～16:00	3 時間	川 崎 市 総 合 教 育 セ ン タ ー	村 井 直 子 高 橋 悦 子 三 宅 裕 子 古 村 睦 美 田 子 は る み 浅 野 真 美 池 田 恵 子 田 原 明 子	1. 日本語教育を行 う人材の養成・研 修の実施の検討 2. 日本語教育の ための学習教材の 作成の検討	1. 第 3 回(12/20)の内容、アンケ ート、講師依頼、準備、当日担当 について 第 4 回(1/31)の内容、 アンケート、講師依頼、当日担当 について 2.「あゆみ 2」作成検 討委員会の経過報告と今後の検 討方針について
4	平成 25 年 2 月 18 日 14:00～17:00	3 時間	川 崎 市 総 合 教 育 セ ン タ ー	村 井 直 子 高 橋 悦 子 三 宅 裕 子 古 村 睦 美 田 子 は る み 浅 野 真 美 池 田 恵 子 田 原 明 子 藤 中 大 洋	1. H24 年度報告書 の検討 2. 日本語教育の ための学習教材の 作成の検討 3. 日本語教育を行 う人材の養成・研 修の実施の検討	1. 日本語教室、養成・研修、「あ ゆみ 2」作成のふりかえり 2.「あゆみ 2」の最終まとめにつ いて 3. 第 5 回(3/18)の内容、アンケ ート、講師依頼、準備、当日担当 について

【写真】



5. 日本語教室の設置・運営 ①

- (1) 講座名称 かわさきバイリンガル指導者日本語教室 : ひまわりクラス
- (2) 目的・目標 : 外国人や外国にルーツを持つ人たちが、日本語の力を身につけ、バイリンガルの立場としての地域支援をより良く行っていく。
- (3) 対象者 : 川崎市内又はその周辺に住む外国人や外国にルーツを持ち、N1・N2 レベルの人
- (4) 開催時間数(回数) 20 時間 (全 8 回)
- (5) 使用した教材・リソース : 講師が準備したもの
- (6) 受講者の総数 15 人
(出身・国籍別内訳 : 中国 10 人・韓国 4 人・ペルー 1 人)
- (7) 受講者の募集方法
市民館の日本語教室担当者にチラシを送って広報をお願いしたり、日本語指導等協力者勉強会メンバーが個別にメールや電話で参加を呼び掛けた。
(募集のチラシは業務完了報告書の表紙とともに郵送)
- (8) 日本語教室の具体的内容

取組名 : かわさきバイリンガル指導者日本語教室 : ひまわりクラス

実施期間 : 平成 24 年 7 月 23 日～平成 24 年 8 月 24 日

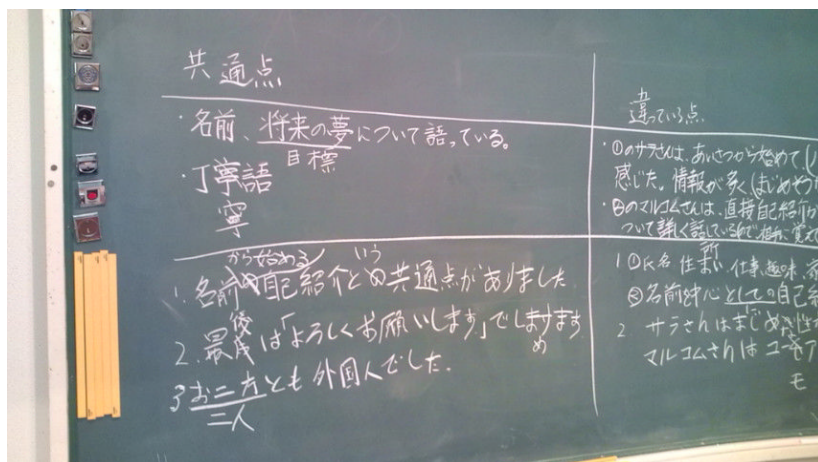
回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名
1	平成 24 年 7 月 23 日 9:30～12:00	2.5 h	川崎市総合教育センター	5	中国: 5	自己紹介をする(3102)	自己紹介文とは 自己紹介文を作ろう	矢沢悦子
2	平成 24 年 7 月 23 日 13:00～15:30	2.5 h	川崎市総合教育センター	5	中国: 5	挨拶をする(3101)	あいさつ文・スピーチのいろいろ 読解力を養う	矢沢悦子
3	平成 24 年 7 月 24 日 9:30～12:00	2.5 h	川崎市総合教育センター	8	中国: 4、 韓国: 4	依頼や誘いを 受ける・断る (3003)	依頼する 依頼を承諾する 依頼・誘いを断る	矢沢悦子
4	平成 24 年 7 月 24 日 13:00～15:30	2.5 h	川崎市総合教育センター	7	中国: 5、 韓国: 2	感謝する・わび る(3002)	感謝する わびる	矢沢悦子
5	平成 24 年 8 月 23 日 9:30～12:00	2.5 h	川崎市総合教育センター	5	中国: 5	異文化を理解 する(32)	ジェスチャーのいろいろ 日本のあれこれ	矢沢悦子

	00							
6	平成24年8月23日 13:00~15:30	2.5h	川崎市総合教育センター	5	中国: 5	日本の一般的なマナーを理解し、マナーにのっとって行動する(3103)	物をあげる・もらう お悔やみを言う 訪問する	矢沢悦子
7	平成24年8月24日 9:30~12:00	2.5h	川崎市総合教育センター	6	中国: 5、 韓国: 1	進路相談を行う(2005)	神奈川県公立高校入学のためのガイドブックを読む	矢沢悦子
8	平成24年8月24日 13:00~15:30	2.5h	川崎市総合教育センター	6	中国: 3、 韓国: 2、 ペルー: 1	学習する(40, 41)	自分の学習方法を振り返る。新聞を書き写し、知らない漢字や言葉を辞書で調べる。	矢沢悦子

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

1. テーマ : 自己紹介をする(7月23日)

- ① あいさつ、矢沢先生の紹介、写真許可・アンケートのお願い
- ② 矢沢先生の自己紹介とプランについて
- ③ 問題を解く。終わった人はルビをふる。



- ④ 問題を解く。
- ⑤ 自己紹介文を作り、発表する。
- ⑥ 質疑応答

(10) 目標の達成状況・成果

☆これから正式な場で挨拶をしなければならないので、正しい挨拶がきちんとできるようになるのに大変役立った。

☆・社会人として必要不可欠な丁寧な表現を身につけるのに大変役に立つ内容だった。
☆ジェスチャーは国やその他の文化によって相手を不快にさせてしまうことがあるという事を知り、気をつけなければならないと思った。

☆自己紹介の時の注意点を再認識することができたので、自信を持って指導できると思う。

☆自分自身が日常生活で自然に使えるようになることで、子供に良い見本となると思う。

☆・感謝と謝罪の場面で言葉選びはとても大事だと思う。

・自己紹介を集中して教えてもらい、大変勉強になった。今後生活の中に、私的も公的にも迷わず

自己紹介ができると思う。

・日頃良く使う敬語や丁寧な表現を勉強することができて良かった。

・初めての参加だったが、依頼や勧めの言い方等とても自分自身のためになったと思う。
これからできれば参加していきたいと思う。

・「依頼や誘いを受ける・断る」の学習は、すごくよかった。勉強になった。

・敬語の使い方、依頼の仕方、感謝の仕方がとても大切だと思った。

・日常生活の用語をもっと正しく使えるようになりそう。これからもいろいろ勉強をさせていただき、もっときれいな日本語を喋れるようになりたい。

・細かいところまで説明をしてくださってとても勉強になった。日本人がどういうふうにつかっているかその場で聞けるのもよかった。

・感謝やおわび等の使い方の加減や文法等、あいまいに使っていた表現等を正すことができ、とても自分のレベルアップになった。

・日本語って難しいと感じた。これからいろいろ使い方を注意できると思う。本当に勉強になった。

・助詞は自分には一番弱いところで、大変勉強になった（2名）。

・社会人として様々な場面でマナーが問われるので、勉強になった。

・訪問する時のマナーなどいろいろわかるようになった。

・外国人である私は、日本のマナーを勉強したかったけれどなかなかできなかったもので、今日は大変勉強になった。

・日本語の言葉づかいについて、良く学べた。

・自分ではまとめられなかった（考え方など）ものを日本語で書くのに大変役立った。

・日本の中学校の進路相談について、勉強になった。

・面接シートを書くため指導の勉強になった。

・今後も日本語の上達の為に、機会があったらまた受けたいと思う。

・自分の日本語力の足りなさをしみじみと感じた。もっとがんばりたいと思う。

・日本語だけではなく、勉強内容まで勉強になった。

・日本語の間違い箇所を少しずつわかってきたことが、今日の一番の学びだった。

（11） 改善点について

委託を受けてから、内容・講師の先生・日程・会場を決定するまでの期間が短かったため、広く参加者を集めることができなかった。その点が今後の課題と考える。

5. 日本語教室の設置・運営②

- (1) 講座名称 : かわさきバイリンガル指導者日本語教室：タンポポクラス
- (2) 目的・目標 : 外国人や外国にルーツを持つ人たちが専門的な知識を少しでも身につけ、バイリンガルの立場としての地域支援をより良く行っていくためのスキルを身につける。
- (3) 対象者 : 川崎市内又はその周辺に住む外国人や外国にルーツを持ち、N3 N4 レベルの人
- (4) 開催時間数(回数) 7.5 時間 (全 3 回)
- (5) 使用した教材・リソース : 講師が準備したもの
- (6) 受講者の総数 4 人
(出身・国籍別内訳 フィリピン 4 人)
- (7) 受講者の募集方法
市民館の日本語教室担当者にチラシを配って広報をお願いしたり、日本語指導等協力者勉強会メンバーが個別にメールや電話で参加を呼び掛けた。
(募集のチラシは業務完了報告書の表紙とともに郵送)
- (8) 日本語教室の具体的内容

取組名：かわさきバイリンガル指導者日本語教室：タンポポクラス

回数	開催日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名
1	平成 24 年 7 月 23 日 13:00～15:30	2.5 h	川崎市総合教育センター	4	フィリピン: 4	あいさつ(3001)	自己紹介 先生との会話に必要な敬語	古村睦美
2	平成 24 年 7 月 24 日 9:30～12:00	2.5 h	川崎市総合教育センター	4	フィリピン: 4	手助けに感謝する(3002)	お礼を言う。感謝の言葉の表現練習	田原明子
3	平成 24 年 7 月 24 日 13:00～15:30	2.5 h	川崎市総合教育センター	4	フィリピン: 4	誘う・誘われた時の日本語 (3003)	誘いを受ける・断る言い方	浅野真美

(9) 特徴的な授業風景

2012文化庁日本語教室タンポポ(N3・N4)第2回

- 日時 : 7 月 23 日 (月) 13:00～15:30
- テーマ : あいさつ (敬語 学校で)

3. 内容 :

今日のテーマを説明

① 自己紹介をする。

② 初めて自己紹介をするときに必要な情報を考える。

ワークシートAに書く。

{ 名前、タガログ語を使う。来日〇年。・・・ }

③ 先生との会話で必要な敬語を学ぶ。

☆～いいですか。もらえますか。来ます。出せばいいですか。教えてもらえますか。

「おっしゃいました。 参りますとか・・・」

☆ある。始める。 仕事・時間・話・意見・家族

④ 敬語を使い依頼や質問をしてみる。ロールプレイ

以上

2012 文化庁日本語教室タンポポクラス (N3・N4) 第3回

1. 日 時 : 7月24日(月) 13:00~15:30

2. テーマ : 誘う・誘われた時の日本語

3. 内容 :

①導入活動

・学習者に週末、夏休みの予定を聞き、どこかに友人を誘ったり、誘われた経験があるか聞いてみる。

・学習者から、誘われた時に返答に困った経験があったことについて話す。

②「誘う・誘われる」場合の会話文の練習

分からない単語を確認する。

③どんな言葉で誘いを受けているか、話し合う。

④学校行事(授業参観、懇談会)の案内を読んで、友人を誘う。

⑤地区のイベント案内を読んで、誘い方を練習する。

⑥色々な状況の場合を想定して、誘い方を練習する。

以上

(10) 目標の達成状況・成果

・時間が短すぎて学習が十分ではなかった、もっと学習したかった。

・挨拶の正しい仕方が学べた。

・敬語の使い方の認識ができた。

・曖昧に使っていた会話についての正しい使い方の気づきがあった。

・我々でも日常に即した指導ができると思った。

(11) 改善点について

参加人数が少なかった。参加してもらうためのアピールの仕方が今後の課題である。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

- (1) 講座名称 かわさきバイリンガル指導者養成講座
- (2) 目的・目標 子どもの教育の現場で使用する専門的な日本語指導法を学ぶ
- (3) 対象者 川崎市日本語指導協力者を中心に、地域に住む住民・保護者
- (4) 開催時間数(回数) 15 時間 (全 5 回)
- (5) 使用した教材・リソース 各講師の準備したもの
- (6) 受講者の総数 79 人
(日本: 人 52 人 中国: 16 人 韓国: 4 人 ブラジル: 3 人 フィリピン: 3 人 ベトナム: 1 人)
- (7) 受講者の募集方法
募集チラシ 協力者お知らせメール、協力者からの地域外国人への直接声掛け
(募集のチラシは業務完了報告書の表紙とともに郵送)
- (8) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名
1	平成24年 10月26日 13:45～ 16:45	3h	川崎市立 宮前小学校	46	日本:31 中国:9 韓国:3 ブラジル:1 フィリピン:2	授業の観察 研修	4人の授業 見学 バイリンガル の人が授 業を行う際 の工夫	5	矢沢悦子 張学峰、 道場フロー デリザ 浅野真美、 小野日出子
2	平成24年 11月8日 14:00～ 17:00	3h	川崎市総合 教育セン ター	34	日本:25 中国:5 ブラジル:2 韓国:1 フィリピン:1	日本語指導 の計画 的な指導に ついて	にほんごの あゆみ2を 日本語指導 に生かすに は	1	菅原雅枝
3	平成24年 12月20日 14:00～ 17:00	3h	川崎市総合 教育セン ター	39	日本:31 中国:6 ブラジル:1 フィリピン:1	特別に支援 を要する 児童生徒へ の接し方	特別に支援 を要する児 童を指導し ていく中で 実践を受け て	1	片山純子
4	平成25年 1月31日 14:00～ 17:00	3h	川崎市総合 教育セン ター	54	日本:38 中国:10 韓国:3 ブラジル:1 フィリピン:1 ベトナム:1	ここがポイン ト! 日本語指導	教える力を伸 ばすために 単語・文型・ 読むこと・書 き方の教え 方	1	矢沢悦子
5	平成25年 3月18日 14:00～ 17:00	3h	川崎市総合 教育セン ター	45	日本:33 中 国:8 韓国:2 フィ リピン:2	1年を振り 返って 次年度に向 けて	支援教育に ついて 公開授業の 振り返り	1	藤中大洋

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

①2012年12月20日 『特別に支援を要する児童生徒への接し方』

講師・片山純子先生

この研修は(21: 特別支援教育を受けさせる)の項目について講義を依頼

[事例発表2例]

事例①の児童は、個別指導が必要と思われる。

事例②の児童は、居場所を確保し、落ち着くようになると自分の行動が分かるようになる。

[片山先生の講義（事例を受けて）]

日頃接する中で、何か違うと感じる→原因を考える→その気づきを一人で抱え込まず周りの人と共有する。

障害が疑われても診断するのはドクター。診断名がつく事は大事なことでない。

目の前の子が、何に困っているか、なぜ困っているかを考える。すべての子どもが分かりたいと願っている・・・つながりたい。学びたい。認められたい。⇒いろいろな人で支えていく。思い込みや当てはめの支援では、うまくいかないことがある。子どもをよく見て、相談しながら支援を考える事が大切。

: 質疑応答 アンケート記入 終了

②2013 年 1 月 31 日 『日本語指導力をのばすための研究』 講師・矢沢悦子先生
教える力を伸ばそう

この研修は（４０：学習を管理する）の項目について講義を依頼

[子どもによって異なる教え方]

[単語を教える]

[文型を教える]

[読むことを教える]

[書き方を教える]

質疑応答 今日の研修での気づき・アンケート記入 終了

(10) 目標の達成状況・成果

毎回出席者にアンケートを配布、記入してもらった。

- * 公開授業を見学し、地域で子育てをしている母親の立場で、日本語教育を学べた。
- * 日本語指導法のレベルアップのために参考になる企画であった。ワークショップで他の日本語指導者の様々な意見が聞けて勉強になった。
- * 子どもの障害が疑われた時の、指導者としての対応、支援の仕方を知り、参考になった。特別支援コーディネーターの存在を初めて知った。
- * 専門的な知識を元に、教え方に対する具体的な注意点が学べたり、再認識させられたりした。

等々、毎回『大変ためになった・ためになった』との感想が大多数であった。出席者も毎回目標の 30 人をはるかに超えた。



(11) 改善点について

☆ 地域の外国人を含むワークショップをするとき、コーディネートする力がより必要と思われた。

☆ 研修を必要とする人に、参加してもらうための募集方法の検討

☆ 国により課題が異なるので、国別の研修があってもよかった。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称 「にほんごのあゆみ2」

(2) 対象 地域で子どもに日本語を指導する外国人および日本人指導者。

(3) 目的・目標 外国人および日本人が子どもに日本語を指導しようとするときの指針となる。また指導途中や指導終了時に日本語の習得状況を子どもや保護者に伝え更なる学習意欲の動機づけとなるように使用する。日本語基礎の指導用として「にほんごのあゆみ」があるので、次の段階のものとして「にほんごのあゆみ2」を作成する。

- (4) 構成 学校での「生活場面」と「学習場面」に分かれコミュニケーション・話す・聞く・読む・書く・漢字それぞれの視点から見た項目からなる。
- (5) 使い方 指導計画を作成するときに使用する。指導途中、次の指導内容や指導法を考えるときの資料とする。指導終了時に学習状況を把握する。
- (6) 具体的な活用例 日本語の基礎用「にほんごのあゆみ」で子どもの学習状況を把握し基礎から次の段階への指導がスムーズに移行するために使用する。
日本語指導者が子どもの様子を把握し、「にほんごのあゆみ 2」の項目を指導に組み入れ 指導法、指導順、時間配分等を考える際に使用する。指導途中では「にほんごのあゆみ 2」のどの項目が達成できたかを確認し、子どもを励まし今後の目標を設定することができる。保護者に対しても日本語の習得状況を説明するのに使用する。また学校においては、担任の先生と日本語指導者とが子どもの日本語の状況を共有し教室での授業に役立つ情報を提供することができる。
指導終了時には指導者自身が「にほんごあゆみ 2」をもとに、指導法、指導時間、指導順等を振り返り、今後のより良い指導に役立てるために使用する。
- (7) 成果物の添付 別ファイルで添付

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

川崎市には外国人や外国にルーツを持つ人達が多く居住している。居住者自身が地域の住民であることから始まり、子どもの保護者、父親、母親、学校で外国にルーツを持つ子ども達の児童生徒の保護者でもある。また、新しく来日したエスニックコミュニティの人たちへの情報伝達者として活躍する。また、ある人はバイリンガルの立場としての支援を地域でおこなっている。これらの人たちが専門的な知識を少しでも身につけるための事業を展開する。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

日本語教室後に行ったアンケートより、検証した。

○自分の指導の参考になったかについて

- ・日本語をもっと正しく話せるようになった。
- ・自己紹介の時の注意点を再認識することができたので、自信を持って指導できると思う。
- ・日本での生活で、結婚式・葬式・いろいろな場面で使える挨拶を勉強できて良かった。
- ・まだわからない。
- ・発音まで直していただいた。
- ・自分自身が日常生活で自然に使えるようになることで、児童・生徒に良い見本となると

思う。

- ・発音・丁寧語の使い方等を正すことができた。
- ・慎重に考えて指導しなければならない。
- ・『日本特有』というのを『本当?』と疑う姿勢、大切だと思った。
- ・敬語の使い方が勉強になった。
- ・感謝と謝罪の場面で言葉選びはとても大事だと思う。
- ・ジェスチャーを簡単に考えていたが、十分気をつけないといけないということがわかった。
- ・マナーに関して、指導する前に正しい知識を持って教えられる。
- ・日本のマナーの勉強になった。
- ・言葉の言い回し等、使い方の勉強になった。

○今後同様のセミナーに参加するか?

☆「参加する」は「、内容によって参加する」の1名を除いて全員であった。

○セミナーに関する意見・感想

- ・役にたつ内容で、今後の指導に生かしたい。矢沢先生の話し方がとても上手でわかりやすかった。
- ・少人数だったので、聞きたいことも気にせず質問することができた。
- ・自己紹介を集中して教えてもらい、大変勉強になった。今後生活の中に、私的も公的も迷わず自己紹介ができると思う。
- ・今後に活用できると思う。
- ・日頃良く使う敬語や丁寧な表現を勉強することができて良かった。
- ・初めての参加だったが、依頼や勧めの言い方等とても自分自身のためになったと思う。これからもできれば参加していきたいと思う。
- ・何気なく使っていたところを習うことができて、すごく勉強になった。
- ・「依頼や誘いを受ける・断る」の学習は、すごくよかった。勉強になった。
- ・敬語の使い方、依頼の仕方、感謝の仕方がとても大切だと思った。
- ・役に立つ内容が盛りだくさん、とても勉強になった。
- ・日常生活の用語をもっと正しく使えるようになりそう。これからはいろいろ勉強をさせていただき、もっときれいな日本語を喋れるようになりたい。
- ・細かいところまで説明をしてくださってとても勉強になった。日本人がどういうふうにつかっているかその場で聞けるのもよかった。
- ・感謝やおわび等の使い方の加減や文法等、あいまいに使っていた表現等を正すことができ、とても自分のレベルアップになった。
- ・日本語って難しいと感じた。これからいろいろ使い方を注意できると思う。本当に勉強になった。
- ・今日も楽しい授業だった。とても助かる。
- ・助詞は自分には一番弱いところで、大変勉強になった(2名)。
- ・もっと勉強したいくらいだ。

- ・ 社会人として様々な場面でマナーが問われるので、勉強になった。
- ・ 訪問する時のマナーなどいろいろわかるようになった。
- ・ 外国人である私は、日本のマナーを勉強したかったけれどなかなかできなかったので、今日は大変勉強になった。
- ・ 日本語の言葉づかいについて、良く学べた。
- ・ 自分ではまとめられなかった（考え方など）ものを日本語で書くのに大変役立った。
- ・ 日本の中学校の進路相談について、勉強になった。
- ・ 面接シートを書くため指導の勉強になった。
- ・ 今後も日本語の上達の為に、機会があったらまた受けたいと思う。
- ・ 自分の日本語力の足りなさをしみじみと感じた。もっとがんばりたいと思う。
- ・ 日本語だけではなく、勉強内容まで勉強になった。
- ・ 日本語の間違い箇所を少しずつわかってきたことが、今日の一番の学びだった。
- ・ 時間が短すぎて学習が十分ではなかった、もっと学習したかった。
- ・ 挨拶の正しい仕方が学べた。
- ・ 敬語の使い方の認識ができた。
- ・ 曖昧に使っていた会話についての正しい使い方の気づきがあった。
- ・ 我々でも日常に即した指導ができると思った。

人材の養成・研修でも毎回出席者にアンケートを配布、記入してもらった。

- * 公開授業を見学し、地域で子育てをしている母親の立場で、日本語教育を学べた。
- * 日本語指導法のレベルアップのために参考になる企画であった。ワークショップで他の日本語指導者の様々な意見が聞けて勉強になった。
- * 子供の障害が疑われた時の、指導者としての対応、支援の仕方を知り、参考になった。特別支援コーディネーターの存在を初めて知った。
- * 専門的な知識を元に、教え方に対する具体的な注意点が学べたり、再認識させられたりした。

等々、毎回『大変ためになった・ためになった』との感想が大多数であった。出席者も毎回目標の30人をはるかに超えた。

（３） 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

外国人が漠然と学ばなければならないと思っていたことが、標準的なカリキュラム案があることで、何を指導するかが具体的になった。

（４） 地域の関係者との連携による効果、成果 等

市民館で行われている日本語（識字）学級より、『日本語教室』への参加があった。参加することで、自分の日本語学習についてふりかえることができ、より自分にあった地域の日本語学級を探す必要を感じ、その後、地域のいくつかの日本語教室を見学してまわったケースもあった。また、引き続き日本語教育を行う人材の養成・研修にも参加し、地域で子どもに日本語を教えるために必要なことも学べた。『日本語教室』参加がきっかけとな

り、自分が学ぶだけでなく、社会参加したいという意欲も生まれ、自分自身の日本語学習の目的をより明確化できたようだ。

(5) 改善点、今後の課題について

地域で日本語を学んでいる外国人は、子どもがいれば同時に保護者であり、子どもが地域の学校で安心して快適に過ごすためには、教育現場で使われる日本語や教育システムなどについても学ぶ場があることが必要だと考えられる。地域の日本語教育と学校における日本語教育とは切り離すことができないのではないかと思われる。地域で学ぶ全ての外国人が学校における日本語等を学ぶことはできないので、地域と学校など教育現場をつなぐ人材の育成が必要である。